

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2015年4月NO.37

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“遊び”

9

自然の“鉄棒”

木登り? というより、ぶらさがり。横にまっすぐ伸びた枝にひとりが跳びつくと、友だちもやってきて…全員並んでぶらさがれるかな?

写真:センター24(西ネグロス州)

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

＼特集／

子どもの権利

を守るために

子どもの権利を守るために

すべての子どもは、生まれながらにして自分らの命を輝かせようとする能力を持っています。しかし残念ながら、それを阻害する要因を大人の社会が作り出しています。特に経済的な貧しさの中にいる子どもは自信が持てず、持てる能力を発揮しつつ成長することが難しい状況にあります。チャイルド・ファンド・ジャパンは、教育支援や生活改善だけでなく、子どもの権利の一つである「健全に成長する」ために必要な「心の活力=自尊心」を育むことにも力を入れています。本号では「子どもの権利を守る」取り組みについてご紹介します。(会計・庶務グループ 木村訓子)

子ども会議 ～Children's Congress～

チャイルド・ファンド・ジャパンは2014年度から、新しい取り組みとして、「みんなで守る子どもの権利プロジェクト」をフィリピンで開始しました。2015年1月、取り組むべき活動の計画を立てることを目指して、子ども会議をマニラで開催しました。

参加したのはスポンサーシップ・プログラムの支援を受ける小学校高学年からハイスクール4年生

までのチャイルドで、15の協力センターから男女ひとりずつ、計30名。マニラに行くのも、飛行機に乗るのも、親元を離れて共同生活(3泊4日)するのもすべて初めてというチャイルドがほとんど。ネグロス島のセンター24に在籍するビバリン(15歳、ハイスクール3年生)もそのひとりです。

「ワクワクした！」

ビバリンは、地域のチャイルドたちの集会で子ども会議に参加する代表に選ばれました。誰もがいつかは行ってみたいと願う首都マニラ。子どもたちのあこがれの場に行くことを推薦されたビバリンは、日ごろから仲間の信頼を集め、リーダーシップを発揮していたことが想像できます。代表に選ばれたことを家族はとても喜んでくれ、母親は「素晴らしい機会を与えられたのだから、がんばってきてね」と背中を押してくれました。

辛い時、このカードを手にとってメッセージを読み、励みにしています。

スポンサーさんからのクリスマスカードは今も大切な宝物で、ビバリンの家の一番目に付くところに飾っています。



*子ども会議で最優秀賞をとったビバリンたちの絵。

「生きる」「守られる」「育つ」という子どもの権利の柱の文字を入れようと班で話しあいました。



子ども会議に参加するチャイルドたちはお互い初対面でしたが、すぐに打ち解けました。会議のプログラムで、参加者たちは「子どもの権利」に関する課題や改善策について、歌や演劇で表現することを学びました。また、絵画のワークショップもあり、子どもの権利の柱を描いたビバリンの班は最優秀賞を獲得しました。

「生まれて初めて絵の具を使って描いた絵が、賞をもらえるなんて感激!」と、ビバリンは興奮冷めやらない様子。



初めて絵の具を使う
チャイルドも。

絵の具もクレヨンも色鉛筆も、家にはない子がほとんどです。子ども会議では、絵の講師を招き、子どもたちがのびのびと絵を描ける環境を整えました。

講師はビバリンたちに、「ひとりひとりに才能があるのだから、自信を持って描いていいよ」励ましたそうです。このような講師の声かけも、「子どもの権利」を守ることに通じています。ひとりひとりを認めて、その能力を引き出す第一歩だからです。

絵画ワークショップの様子。

センター活動の積み重ね

チャイルドたちが「子どもの権利」について知ったのは子ども会議が初めてではありません。それぞれの暮らす地域で、協力センターが実施するプログラムで繰り返し学んでいます。ビバリンたちは「自分らしく生きていいんだよ」「恥ずかしがらなくていいよ」「自分たちの殻に閉じこもらないで」というメッセージを、ソーシャルワーカーであるセンターのスタッフから繰り返し受け取っています。そういったメッセージの積み重ねが自信につながり、自尊心が育まれ、「自分を大切にする」→「他者を尊重する」という行動に結びつくのです。

ビバリンは「子どもを守る」ことについて調べるという取り組みにも参加し、「子どもの権利条約」*の基本

事項や、権利には必ず義務が伴うことも学びました。

『自分のことを大切にしてくれる家族に囲まれる権利』があると同時に『家族に自分の成長を喜んでもらえるように一生懸命勉強する義務』や『家の仕事を手伝う義務』もある。

『虐待から法的に守られる権利』に呼応して生じる義務は『他者を尊重すること』と『自分自身と自分の暮らす地域を大切にすること』。

これらはビバリンが自分の言葉で説明してくれた権利と義務です。

*子どもの権利条約：1989年、国連総会にて採択された、子ども（18歳未満）の基本的な人権を国際的に保障するために定められた条約。日本は1994年に批准した。基本的な人権を、その生存、成長、発達過程で特別な保護と援助を必要とする子どもの視点から詳説。（UNICEFホームページより抜粋）

貧しさゆえの…

「学校は楽しい？」という質問に「もちろん！」と快活に答えたビバリンでしたが、「学校は安全な場所だと思う？いじめなどの問題はない？」とたずねると、一瞬言葉を選ぶようなそぶりがあり、ややあって「Yes」と回答。

この時、「子ども会議」で発表されたあるグループの寸劇を思い出しました。遠くの村から学校に通ってくる子が「臭い」といっていじめられる場面が演じられていたのです。せっかく、『もっと勉強したい』『より良い生活を送りたい』と思って学校に行っても、そこでいじめられるという現実が、貧しい家庭の子どもたちにはあります。

貧しいことは子どもの責任ではありません。多くの場合、直接的に親の怠慢でもありません。どんなに努力しても貧困から抜け出せない悪循環が子どもたち

の暮らす社会を覆っています。さらには、貧しさから抜け出そうとする努力をも押さえつける圧力があるのです。貧しい地域ではみんなが助け合うこともあります。貧しさゆえに関係がギスギスすることもあります。チャイルド・ファンド・ジャパンの支援活動は、そのような、人々の心が荒み、気力も自信も衰えた貧困地域において、まずは人々がお互いを尊重しあい、助け合う協力関係を育むところから始まります。



通学路は背丈より高い
サウキビ畑の中の農道
(センター24)

子ども会議の成果

子ども会議の最終日、チャイルドたちとセンターのワーカーたちが「子どもの権利が守られる社会をつくる宣言文」を起草しました。チャイルドたちはもちろん、チャイルド・プロテクションに真剣に取り組む証しとして、センター長やスタッフ、フィリピン事務所スタッフ、日本から参加したチャイルド・ファンド・ジャパンの高田和彦理事長を含め全員が拇印を押しました(写真)。



「子どもの権利が守られる社会をつくる宣言文」

Call to Action and Commitment

<子どもたち起草>

チャイルド・ファンド・ジャパン第二回子ども会議参加者は、次のことを家庭の保護者や地域の指導者に求めます。

- 成長を支える家庭、学校、地域に生まれ、生活すること
- 自分たちの成長と地域社会の発展のために、積極的に情報を共有したり提案する機会が与えられること
- 家庭、学校、地域における虐待、性的暴力、児童労働といったあらゆる暴力から守られること

<協力センターのスタッフ起草>

子どもたちの最善の利益のために働くものとして、次のことを約束します。

- 可能な限り、子どもたちの声を聴き、子どもたちが必要としていることを見極め、そのために働くこと
- 研修や学びの場を通して、子どもたちの持つ潜在能力、知識、技術に光を当てて引き出し、伸ばし、肯定すること
- 感情的、身体的、精神的、社会的に困難な状況にある子どもたちを、家庭の保護者や地域の人々と協力して導くこと
- 思考、言葉、行動を通じて、「子どもの権利」を提唱すること

会議をふりかえって

「マニラでの4日間は充実感いっぱいだった。盛りだくさんのプログラムで体力的には疲れたけど、最終日にはやりきったという充実感があった。」

地域のチャイルドの代表として子ども会議に参加したビバリンは、「子ども会議で学んだことを、地元の仲間たちに伝えていくのが自分の務め」と責任感と意欲を見せています。自分が得たような自信を他の子どもたちにも持ってほしい、そしてチャンスがあれば、次の子ども会議にはぜひ参加してほしい」と話します。



ビバリン(右端)
学校でクラスメートのチャイルドたちと

ビバリンのお母さん

「みんなで守る子どもの権利プロジェクト」は、親や地域の人々も巻き込んで、コミュニティ全体で子どもを守ることを目指したプロジェクトです。親向けのセミナーに参加したビバリンのお母さんは、「改めて『子どもを守る』ことについて学び、考えました。その結果、例えば、汚い言葉を使わないよう気を付けるようになりました。」と話します。

親が子どもを守ること。これは当たり前のことかもしれませんが、でも取って言われないと意識できないことでもあります。経済的に苦しく、日々の生活で精いっぱい親たち。「生活は確かに大変。でもその生活はそもそも、子どもたちを守り、成長を促すためでしょう?」と改めて気づいてもらうことも必要です。



ビバリン(左から2人目)と家族。父親はサトウキビ畑で働く日雇い労働者です。

小学校5年生のロンも、ビバリンと同じ地域から子ども会議に参加。

「子ども会議ではTシャツのプリントが一番楽しかった!と嬉しそうに作品を見せてくれました。描いたのは両親と姉妹との5人家族が、大きな街に住むという「夢」。

家の前で、両親と妹と



チャイルド・プロテクション・ポリシー

支援者代表として理事を務めている福嶋です。マニラのアテネオ大学で開かれた子ども会議を見学しました。スポンサーシップ・プログラムの支援を受けている10-15歳の代表30名が参加するワークショップです。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、子どもを中心とした活動を行う団体として、チャイルド・プロテクション・ポリシーを掲げています。その基本的価値観は、すべての子どもの尊厳と価値、子どもの参加する権利、エンパワメント、そして子どもの権利(「生きる権利」、「守られる権利」、「育つ権利」、「参加する権利」)の尊重です。

子どもの権利とは何かを理解するために、ワークショップでは、①怒り、②恐れ、③悲しみ、④喜びをどのような時に感じるかを話し合い、まとめました。④「喜び」を感じるのが「遊び」であることは万国共通ですね。①「怒り」が「(学校での)いじめ」や②「恐れ」が「(家庭内の)虐待」も残念ながら世界中で見られる現象です。

ところが、③「悲しみ」は日本で暮らす私たちには、想像がつかない回答でした。「子どもの労働」だったので。貧しい地域で暮らす子どもの多くは、親の仕事が忙しくなると手伝わなくてはなりません。また、親が学校で学んだ経験が乏しいために教育の重要性を実感できず、また頭で理解はできても目の前の生活を優先せざるをえず、「学校へ行くよりも家の仕事を」と強いることもあります。子ども自身が家庭の状況を理解しているとしても、学ぶ時間や友だちと遊ぶ時間を削られることは、非常に悲しいものです。

子どもを支援するだけでは、子どもの権利を守ることはできません。チャイルド・ファンド・ジャパンでは、家庭やコミュニティも巻き込み支援することで、子どもたちが安心して育つ環境を提供しています。

(チャイルド・ファンド・ジャパン 副理事長 福嶋美佐子)



福嶋理事(右から3人目)。ビバリンと近隣に暮らす他のチャイルドたちと

チャイルドたちの声を聴く

チャイルド・ファンド・ジャパンは2年前から、子どもたちの置かれている現状をより詳しく把握するため、チャイルドたちへのインタビュー調査を実施しています。

食事、教育、青年活動への参加、自尊感情や他者とのかわり、家族関係といった項目と並んで、子どもへの暴力についても質問しています。2012年度の調査では、313名のフィリピンのチャイルドのうち、15%が脅しやいやがらせなどの「暴力」を経験していました。全体の69%が「子どもの権利について知っている」と回答しましたが、暴力を受けたり目撃した場合、信頼できる大人に相談する必要があることを知っていたのは42%に留まりました。

このような調査結果も踏まえて、子どもを守るために必要なアドボカシー(政策提言)と支援事業の計画づくりに取り組んでいます。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、子どもへの暴力や虐待のない世界を目指して、活動を続けます。

引き続き、「みんなで守る子どもの権利プロジェクト」へのご協力をお願いいたします。

事務局長交代のお知らせ

就任のご挨拶

チャイルド・ファンド・ジャパン 事務局長 和山 正秀

このたび、小林毅前事務局長の退任に伴い、2015年4月1日付で事務局長に就任することとなりました。1975年に海外での支援活動を始めてから現在に至る、長い歴史と伝統を持つチャイルド・ファンド・ジャパンの事務局長という役割は、身に余る光栄と同時に非才の私には重責の大役ですが、私たちのビジョン「すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成」の実現に少しでも近づけるよう、職員と共に努力してまいります。

チャイルド・ファンド・ジャパンの特徴として、「信頼」関係の構築を大切にする点があります。支援を受けるチャイルド、親、地域の相互の信頼、チャイルドとスポンサーの皆様との信頼、ご支援くださる皆様と私たちとの信頼、私たちの活動を支えてくださる企業や団体との信頼など、多方面にわたり信頼関係を構築してまいりました。今後も「信頼」関係を広げ、更に深め、継続していくことを第一に活動してまいります。

併せて、チャイルドや家族、地域に関する情報をはじめ、12の加盟団体により構成されるチャイルド・ファンド・アライアンスと協働して推進するキャンペーン、調査、映像などの情報をさらに積極的にお伝えすることに



注力してまいります。

今年にはチャイルド・ファンド・ジャパンの設立10周年、海外支援活動を始めて40年の節目にあたります。小林前事務局長は現在の体制を築き、多くのことに精通しておりました。その知識と経験を受け継ぎ、着実に前進するよう努力いたします。

これからも引き続き、皆様からのご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

退任のご挨拶

チャイルド・ファンド・ジャパン 前事務局長 小林 毅



ご支援くださる皆様には温かいご理解と大きなご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

私は、3月31日をもって、チャイルド・ファンド・ジャパンを退職いたしました。32年間、厳しい生活を強いられる子ども

たちのために働くことができましたのも、ひとえに皆様のお支えによるものです。深く感謝申し上げます。

1月にフィリピンを訪れたローマ・カトリック教会のフランシスコ法王は、一人ひとりの子どもは歓迎され、大切にされるべき賜物であり、希望を奪わず、路上へ追いやらないように、子どもたちを愛しましょう、と人びとに語りました。チャイルド・ファンド・ジャパンは、新たに事務局長に就任した和山正秀のリーダーシップのもと、今後も子どもたちが希望をもって成長する機会を整えてまいります。皆様には、引き続き温かいご理解とご協力をお寄せくださいますよう心よりお願い申し上げます。

大規模地滑り災害緊急支援プロジェクト

協力期間：2014年8月6日～2015年3月31日

支援対象：ネパール・シンドウパルチョーク郡パングレタル村、ドゥスクン村、タウタリ村の被災者、子どもたち

協力団体：GMSP、TUKI

2014年8月2日にシンドウパルチョーク郡で大規模な地滑りが起こり、死者156名以上、全壊家屋113軒、避難世帯約500世帯という被害がありました。チャイルド・ファンド・ジャパンの支援地域でも、全壊家屋1軒、半壊家屋24軒、避難世帯60の被害がありました。8月14日にパートナー団体であるGMSPとともに、ドゥスクン村ダビ集落においてテント生活を送っている60世帯に対し、雨水を防ぐためのグラウンドシート、そのうち特に被害の大きかった8世帯には、テントの上にかけて雨水を防ぐトタン板を192枚支給しました。またこれらの世帯の81名の子どもが安心して学校で勉強が続けられるように、バッグ、ノート、ボールペン、鉛筆などの学用品を配布しました。

その後、ドゥスクン村とタウタリ村の家をなくした9世帯に対し、家屋建設の資金援助を行いました。家族7名をこの地滑りで亡くしたタウタリ村の兄弟2名は、12月に4部屋2階建ての土作り・トタン屋根の建設を終えました。地滑り後、兄弟はそれぞれ結婚・再婚し、現在は近くの村の建設現場で日雇いの仕事をしながら、チャイルド・ファンド・ジャパンから収入向上支援を通してヤギ5匹を受けとり、生計の道を立て始めました。ドゥスクン村の8世帯は、6軒でトタン屋根がふかれ、残り2軒も2階の壁が積みあがり、3月末までに完成し移り住む予定です。

(ネパール事務所長 田中真理子)



完成が近い家(ドゥスクン村)



完成した家の台所でくつろぐ家族(タウタリ村)

フィリピン台風22号 緊急・復興支援プロジェクト

協力期間：2014年12月16日～

支援対象：東サマール州ボロンガンの5カ村の被災者、子どもたち

協力団体：センター42

2014年12月6日、台風22号ハグピートがフィリピン中部のサマール島に上陸し、各地に大きな被害をもたらしました。センター42(在籍チャイルド数250名)がサマール島のボロンガンにあり、約1年前にフィリピンを襲った台風30号の大きな被害から復興途上のさなかの被害でした。

事前の避難が徹底されたため、チャイルドと家族に大きな人的被害はなく、全員の無事が確認されましたが、チャイルドの全世帯の家屋が損壊し、農地、家畜は壊滅的な被害を受けました。

チャイルド・ファンド・ジャパンはこれまでに、緊急物資の配布、家屋再建、子どものこころのケアの支援を行いました。緊急物資の配布では、12月～1月に、1,168世帯を対象に、食料や日用品のセットを配布しました。また、家屋再建のため、被害に応じて建設資材を配布しました。子どものこころのケアの支援では、被災した110名の子どもたちを対象に、劇を通して被災した体験を振り返り、こころの傷をいやすための活動を行いました。1月現在も地域の食料不足は深刻で、食料と職を求めての人口流出も懸念される中、農業再開のための野菜の種や肥料の配布、家畜の配布などの追加支援の検討を進めています。



台風で流され、泥まみれの家財を運ぶチャイルドの兄弟



米や乾麺、缶詰、粉ミルク、石鹸、歯磨き粉などを配布しました

支援プロジェクト 情報 ⑩

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト(ヤギプロジェクト)

- 協力期間:2014年4月1日～
- 支援対象:ネパール・シンドゥパルチョーク郡の4カ村に住む子ども、保護者、学校、住民組織など
- 協力団体:GMSP、TUKI

シンドゥパルチョーク郡の4カ村において、2つのパートナー団体と協働して①公立小学校の教育の質の向上②最貧困家庭の収入向上③若年婚を減らすための啓発活動を行っています。

- 1 学校運営委員会とPTA役員に、学校向上計画の見直しと年次計画づくりワークショップなどを行いました。教員を対象に子どもにやさしい教授法研修を行い、地球儀や天秤などの教材を支給しました。2校6教室の壁のモルタル塗りと、トタン屋根のふき替えなどの教室改築を支援しました。また、最貧困層の154名の子どもに制服や学用品を支給した結果、子どもの学校の出席率が上がりました。
- 2 新たに2カ村の30世帯に対しヤギ152匹の支給と飼育・小屋づくりの研修を実施しました。昨年度支給した68匹のヤギのうち14匹を食用として売って66,500ルピー(約8万円)の収入を得ることができました。
- 3 中学・高校の保健体育担当教員に性と生殖に関する研修を、また、若年婚の多い集落の若者グループに青年期研修を行いました。

- 【フィリピン】
 - ・みんなで守る子どもの権利プロジェクト
- 【ネパール】
 - ・子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト
 - ▶子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト



ヤギを受け取る家族

このプロジェクトは今後も継続して実施します。どうぞご協力をお願いいたします。

インフォメーション コーナー

ご報告 仙台で開催された国連防災世界会議に参加しました

近年、世界中で大規模な自然災害が増加しています。その中で、災害による被害をできるだけ少なくするため、「防災」への取り組みが世界的に重要な課題となっています。

チャイルド・ファンド・ジャパンは、スポンサーシップ・プログラムの一環として地域の防災体制の強化に取り組んでいます。また、チャイルド・ファンド・アライアンスとしても、防災能力の強化のための取り組みを行っています。

その活動の一つとして、チャイルド・ファンドは、3月14日から18日にかけて仙台で開催された第三回国連防災世界会議に参加しました。この会議は国際的な防災の枠組みを決めるために国連が主催する、世界的な会議です。

チャイルド・ファンドは、本会議で採択される新たな防災指針に、子ども中心の防災・減災の視点が盛り込まれるよう、子ども支援を行う国際協力団体*1と連携して加盟国や関係機関に働きかけてきました。また、本体会議分科会では「Children & Youth - Don't Decide My Future Without Me(子どもとユースと共に築く未来(仮訳))」の開催を支援しました。

ミニ・ステージでは、セッションの一つ、「巨大災害からの教訓」の様子



セッションの一つ、「巨大災害からの教訓」の様子

2013年のフィリピン台風30号への緊急・復興支援において実施した、若者の参加を取り入れた支援活動についての発表を行いました。この発表は、国連防災世界会議のホームページ*2、国連国際防災戦略事務局のYouTubeチャンネル*3で、ご覧いただくことができます。また、展示会会場でブースを出展しました。今回の世界会議で得られた知識や経験をもとに、チャイルド・ファンドは自然災害から子どもたちを守る取り組みを進めます。

*1 CCCC:Children in the Changing Climate Coalition(気候変動の時代を生きる子どもたちを支援する国際協力団体のグループ(仮称)を構成するセーブ・ザ・チルドレン、プラン、ユニセフ、ワールド・ビジョンとチャイルド・ファンドの5団体。

*2 <http://www.wcdrr.org/> *3 <https://www.youtube.com/user/UNISDR>

お願い 機関紙などのウェブ購読のお願い

より多くのご寄付を支援活動に活用するため、機関紙「SMILES」と年次報告書の郵送での受け取りを停止し、パソコンなどでPDFファイルで購読して下さるよう、ご協力を呼びかけています。機関紙などがダウンロードできるホームページのアドレス(URL)はメールマガジン「チャイルド・ファンド・ジャパン ニュース」でご案内いたします。

機関紙などの郵送での受け取り停止にご協力くださる方は、件名を「ウェブ購読」とし、本文に支援者番号とお名前を記入のうえ、news@childfund.or.jp宛てにメールをお送りください。ご協力くださいますよう、お願いいたします。

ChildFund Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ <チャイルド・ファンドだより SMILES>

2015年3月発行
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長/高田和彦 事務局長/和山正秀
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: <http://www.childfund.or.jp/>

(デザイン)モステデザイン研究所(印刷)有限会社東西印刷

